

昭和八年八月廿一日夜鹿兒島南方海上 を飛んだ大流星に就いて (I)

坂 元 鐵 馬

昨年八月の末三四日間に洩り、當地方新聞紙上に次の様な奇々怪々な記事が毎日の様に掲載されました。

- 出水中學校附近から毎晩人魂が飛ぶ、死んだ女の靈との噂。
- 縣下上空を音もなく翔け廻る怪物、非常時日本の見るだに頼母しい靈火。
- 種子島上空を三個の人魂通過す、花火の如く美しく消ゆ。
- 火玉が一定の間隔で錦江灣を横切る。
- 怪飛行機沖繩に現る、機首を西に飛び去る。
- 長崎市上空にも無音の怪飛行機、同じく九時半。
- 入來に火魂飛ぶ。
- 問題の火玉は果して怪機か、當地軍部では風説否定、旱魃の一現象か。
- 怪火飛翔流言に川内地方火防警戒。

ざつとこんな工合で旺んに書き立てますし、丁度其頃南九州殊に鹿兒島縣下は大旱魃最中でありましたから、此上更に天變地異が起る前兆ではないか等ずいぶん噂に噂を生んだのでした。

以上の記事から推察しますと大流星に違ひありませんが、兎に角珍らしい物らしいと考へましたので、今日迄各地方に問ひ合して調査しました結果、次の様な材料を集める事が出来ました。(要點のみ記します)

1. 長崎市 (新聞記事) 廿一日九時半頃北西より突如怪機現はれ、彦山上空を二往復の後何れかへ消失した。
2. 長崎市 (浦上の檀清澄氏) 稻佐岳の蔭から三つの火が並んで出現約五秒の後一緒に消失、色は電燈の光の様だつた。
3. 出水の桂島 (尾辻丈夫氏) 西北方長島の上空にボ！と火が見え、見る中にズ！と上空に上つた様に見えた。すると直ぐ南東方へ殆んど水平に飛んで行つた。初めは丸い火であつたが、動搖と共に尾を引き次に三個に分れ、二個は下に行つて消え、一個は少々進んで消えた。光度は普通の流星位、即ち打上花火の分散後の一個の丸い白光位の明きであつた。
4. 出水町 (新聞) 廿一日午後九時卅分頃、一個の怪火が出水中學附近から出て、淨月寺の上空にて三個になり、三個の怪火が同じ角度で城山上空に至つて消失した。

5. 鰐島、中甌（永井鹿右衛門氏）廿一日午後九時卅分前後出現、一個の火玉より二個となり三個となる。後一個となり光力減退せり。北西より南東に向ふ。周圍一尺五寸位。色薄赤。約四秒内外かゝつた。

6. 羽月（岩坪正義氏）廿一日午後九時卅分頃、三個の怪火等距離にて西方より現はれ、大口上空に飛來、簾の爲め消失點不明。

7. 宮之城（的場作次郎氏）階下にて怪火を發見、二階に上つても尙見えてゐた。樹木の爲め充分見えず。速度甚だ緩、三十秒乃至五十秒位かゝつた様だ。

8. 入來（新聞）廿一日九時半頃、突如副田上空に怪火を發見し東天に向ひ、數十個の火の粉を散らし、愛宕山上空を過ぎ、船見嶽上空にて消滅す。

9. 串木野（平又男氏）九時半頃鰐島上空に怪火を發見、三〜四秒後流星は尾を引き乍ら南東方に飛び、その瞬間三個となる。強い電燈の様な色で速度は飛行機の1.5〜2倍位。五秒以上かゝつた。

10. 溝部（新聞）怪火を見た。

11. 鹿兒島市池之上町（山下氏）南洲神社上空に怪火を發見、已に三個に分れてゐた。東に東上空にて消失仰角10°内外、座敷の中から見たのである。

12. 同、下荒田町（牧晋作氏）怪火三個に分裂飛行す。丁度松明が走つてゐる様だつた。確かに飛行機の爆音が聞えた。

13. 同、上荒田町（某氏）怪火は三個併行して飛び、紫原上空より大根占上空にて消失したのである、君は先程無音飛行機が發明されたのを知らないか。見もせずに流星等と云ふのは如何にも科學者振つた半可通の云ひさうな事だ（匿名で卑怯千萬ですが氏自身が半可通の標本ですね）。

14. 阿多（新聞）十時卅分頃、吹上濱沖合より火玉一個飛び阿多村上空を通過し三個の流星となり尾を引き乍ら川邊方面へ消失した。

15. 枕崎（北山易夫氏）涼んでゐたら丁度ラヂオ放送の濟んだ直後、坊泊沖合より三個の怪火飛び、發見して三十秒位の後二、三の火の粉を落し、次第に消失し、竹島上空に至る。仰角北極星より低し、25°位か。色は赤味をおびてゐた。

16. 喜入（新聞）怪火を見た。

17. 今和泉（新聞）怪火を見た。

18. 指宿、宮ヶ濱（家の中より某氏）今和泉方向より三個の火玉が南東方吹越の上空へ飛び一個は分れて消え後の二個は魚見岳方向にて消失美しかつた。

19. 同（烏賊釣中某氏）城の權現より出でて宮ヶ濱上空を通り、吹越上空にて分裂す、青白く美しかつた。

20. 川尻温泉（某氏）一個の怪火開聞嶽南麓より現れ、上に上る様であつたが、それからズと南の上空に來て火の粉を散らし、三個に分裂、殆んど水平に飛行し次第に速度加はり、屋久島の少しく東方上空にて二個となり種子島上空を通り次第に消失した。色は初め青白色であつたが、後赤色となり速度加はる。

21. 垂水町 (新聞) 怪火を見た。

22. 垂水, 輕砂 (岩元重造氏) 廿一日夜海岸にて涼んでゐたら九時半過ぎ突如西方谷山上空に怪火現れ、一個より三個に分裂し、旺んに火の粉を散らし乍ら長い尾を引き南の海上を飛び大根占上空に至り消失した。白色に輝き飛行機より数倍速かつた。

23. 新城 (新聞) 怪火が見えた。

24. 花崗 (新聞) 怪火が見えた。

25. 鹿屋 (新聞) 九時頃對岸指宿より出で、錦江灣中空を横切り高山國見連山へ消失した。一定の間隔を保つてゐた。

26. 高山 (新聞) 怪火を見た。

27. 志布志 (田野邊雅海氏) 九時五十分頃街上にて西方上空に三個の火玉を発見、南方へ流るゝが如く飛び杵檳島の方角にて消失、初め益大に見えた。月の表面を見る如き鈍光、後に赤黄色の小玉となる。花火の如く流暢であつた。

28. 種子島 (新聞) 十時頃西方沖合より三個の火玉が上中下の三列となり光り輝く尾を引き乍ら東方に至り忽然として消えた瞬間は花火の様に美しかつた。

29. 屋久島宮ノ浦 (小代崎傳兵衛氏) 納涼中九時半頃鈍杉山山頂を出外れた時氣付いた。東南方にて消滅したが其直前薄雲中を通過、火玉は見えてゐた。

30. 大島 東方村伊須 (泉長文氏) 縁側に轉んでゐた時怪火を見た。東北方であつた様だ、強度の電燈の様な色で時刻は九時--十時の間。

31. 同, 古仁屋 (某氏—鹿児島市西千石町大田氏より通知) 九時半頃西方より東方へ三個の流星が飛んだ。

32. 喜界島, 赤蓮 (秋元清秀氏) 當日海岸に出てゐたら九時三十分頃西方即ち大島の神崎と戸口の中間上空に怪火現はれ東南方にて消失、頭上より北側を通過した。最初は普通の星の様であつたが、接近するにつれ星よりはズリと近くに見えた。頭上近くにて三個に分裂したが一見星の如く内一つは尾を引き、色は電燈の様で大さは人頭大、速度は飛行機より少し速かつた。當夜徳之島附近航海中の船の人達も見た由、目下沖繩にて演習中の爆音防止装置の夜間飛行機ではないか等噂とりどり。

33. 沖繩, 那覇 (新聞) 廿一日九時過ぎ突如那覇上空に無音怪飛行機現はれ機管に一個兩翼に二個の微燈をつけてゐた、附近航行中の某汽船と連絡を取つた形跡あり。

34. 同, 中央氣象臺沖繩支臺 (谷本誠氏) 官舎にて怪火を見た。發見點 N 10° E (仰角5°~6°) 見失つた點(木蔭に入る) N 56° E (仰角3°~5°)。

花山天文臺の新計畫

今般、花山天文臺では、天文學の普及と民衆の理學教育を目的とし、京都・大阪・神戸の三大都市に於いて長期に渉る講習會を開催する準備中。〔花山急報146〕